

少人数部会 研究のまとめ

テーマ「確かな学力を身につけさせるための少人数指導のあり方」

(1) 重点目標と具体的授業実践

個に応じたきめ細かな指導方法の提案と検証について

新単元に入る前には、児童の実態を把握するためにレディネステストを行い、それをもとに、どこに重点を置くか指導計画を立案した。その結果、有効な指導の手だてを工夫することができた。

児童の発達段階や実態を考慮し、児童が操作しやすく、思考の助けとなる具体物や半具体物を提示した。その結果、児童は題意をとらえ、イメージ化しやすくなり、問題を解くことが容易になった。また、学習意欲を持続することができた。

児童が単元を通じて意欲を持続できるような課題提示を行った。例えば、視覚に訴えた課題、身近な日常生活から取り入れた課題、物語性を持った課題などである。その結果、児童の興味・関心をひき、課題解決の意欲を喚起することができた。

児童が自分の考えを抵抗なく発表できるよう、話型を提示するなど、話す力の育成に努めた。その結果、筋道を立てて考えを発表し、自信を持つことができた。

題意を確実に読み取ったり、解決に導く手だてとして、絵や図、マークなどを用いることを習慣化してきた。その結果、文章題の抵抗も少なくなり理解も確かになってきた。

毎時間、学習プリントを用意し、その都度採点することによって、指導と評価の一体化を図ることができた。

個を生かす評価の工夫について

- ・低学年では、自己評価がむずかしく、個人ごとの学習チェックカードは、評価に時間がかかったり、使用しづらかったりしたため、全員が一覧できる形式のチェックカードで評価した。

「基礎・基本の手引き」

- ・100マス計算については、個人差があるため、各自の目標に向かって頑張らせるよう努めた。
- ・学期毎に目標に立ち戻り、確認をしながら学習を進めた。

プリント

- ・毎時間、プリントを用意し、その都度採点することによって、一人一人の実態を把握することができ、つまづきに対処することができた。
- ・宿題のプリントに取り組みせることにより、家庭学習が習慣化した。

ノート

- ・筆算の補助計算をそのままかき残したり、自分の考えを絵や図に表したりするように指導した結果、できるようになった。それにより、個人の思考過程を評価することができた。(2年)

発表

- ・発表のしかたを学年で統一して指導したことにより、自信を持って発表する児童が増えた。また、友だちの発表を聞いたり、話し合うことにより、学び合いができた。

「少人数のよさを生かした指導計画の作成」について

1年

昨年度作成された指導計画を基に授業を行い、必要に応じて変更してきた。略案になっているため、担任と少人数担当者が同一内容で授業を進めるのに効果的であった。また、ブロックやおはじき等の準備物が記されており、担任がスタディルームへ行く児童に持ち物を指示する際にも役だった。

昨年度も今年度も、週3時間の時数であったが、来年度は週4時間に変更される。今年度は不十分であった100マス計算や、たし算とひき算の単元末にあるカード遊びに取り組み、習熟を図る時間も十分に確保できるだろう。

2年

昨年度作成した1年生の指導計画を参考に、4月から指導計画を作成し、等質二分割のグループが同一内容で学習を展開し、1単位時間ごとの指導方法やポイントを確認することができた。

スキル学習の取り組みについて

1年

- ・1年生は他の学年と違い、後期になって初めてたし算、ひき算が出てくるので、それまでは、学習進度に応じた内容のプリントを行った。
- ・繰り上がりのないたし算、繰り下がりのないひき算、繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算のそれぞれを学習してから、計算カード 計算プリント（式が書いてあるもの） マス計算と段階を踏んで進めた。しかし、計算プリントの段階での習熟が徹底していなかったため、マス計算に進んでから、抵抗を示す児童が若干いた。マス計算に進む前に、ある程度、補助計算や指を使わないですらすらと解けるようになっていく必要がある。

2年

- ・4月～11月は、繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算の100マス計算を行った。
1位数と1位数をたし、答えがくりあがるたし算
2位数（10～19）から1位数をひくひき算
- ・12月～3月は、たし算、ひき算、かけ算の100マス計算を行った。
かけ算は、25マスから始め、少しずつマスを増やした。3月には、かけ算も100マスを行った。
- ・3分間での100マス計算は、2年生の段階では難しい。問題数を減らしたり、時間を長く設定するなどの配慮が必要と考える。

その他（学習支援ボランティアとの連携）

- ・低学年では、プリントやノートを見ていただくほか、半具体物の操作活動の仕方など、作業面でもお手伝いをいただいた。
- ・つまずきのある児童を見つけて報告したり、時には個別に指導いただき、個に応じた学習を進める助けとなった。また担当者が個別指導をする時間も確保することができた。
- ・しかし、ボランティアの方との話し合いの時間がなかなか取れず、また、時間割が急に変更になった場合の連絡など、課題も多い。また、5学級（少人数グループを含め）を1人で担当することは、配属のやりくりが難しく、今後の検討課題である。

(2) 今年度の成果

- ・ 絵や図・マークに表すことにより，文章問題を整理し，解決につなげることができた。
- ・ 具体物や半具体物の操作活動を効果的に取り入れることにより，数の概念や式の意味が容易に理解できた。
- ・ 導入及びまとめの段階において，ゲーム的な活動を取り入れることで，児童は興味・関心を持ち，意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・ 学年で統一して発表の仕方（話形を提示）を指導したことで，自信を持って発表する児童が増え，話し合いが深まり，学び合いができた。（1年）
- ・ 単元に入る前にレディネステストをやることにより，児童のつまずきを明らかにし，指導内容を分析しながら授業を進めることができた。（2年）
- ・ 1時間ごとの学習課題を明確にしたことにより，児童自身が見通しを持って学習に取り組むことができた。（1年）

(3) 来年度に向けての課題

- ・ 今年度の学年研究をきちんと引き継ぎ，次年度に生かしたい。（指導計画，資料など）
- ・ 来年度は教材研究の時間を設定し，話し合いを充実させたい。
- ・ 算数的思考力を養うため，授業の中で児童が考える場面を確保する授業を工夫していきたい。
- ・ 指導過程がパターン化しがちなので，いろいろなパターンの授業を工夫していきたい。（プリントを使わない授業，話し合いや作業が中心の授業など）
- ・ 低学年は，体験的な学習も取り入れながら，学習を進めたい。
- ・ 低学年にとっては，100マス計算は，タテとヨコを対応させる能力に左右される。ランダムに式が並んでいる方が速くできる児童も多い。そこで，「基礎・基本の手引き」は，100マスにこだわらず，「繰り上がりのないたし算，繰り下がりのないひき算，繰り上がりのあるたし算，繰り下がりのあるひき算ができる。」としたい。（1年）
- ・ 低学年にとっては，マス計算のやり方そのものが困難であったり，100問が負担だったりするので，問題数を減らしたり，時間を長く設定するなどの配慮が必要と考える。
- ・ 2年最初の単元は，算数の学習の約束やノートの使用の仕方，児童の名前，性格，習熟状況等を把握し，今後の少人数の指導方法や計画をたてるため，TTで指導にあたりたい。（2年）
- ・ 発展問題や習熟プリントを用意する場合には，その問題の内容が本時と十分に合っているか検討する必要がある。
- ・ 1年生が2学期からTTから少人数指導することにより，スタディルームを1，2年の共有により，2年生が理科室や図工室に移動を余儀なくさせられ，机や椅子が2年生の児童に合わない学習環境にある。
- ・ 1年生にとって，100マス計算は，タテとヨコを対応させる能力に左右される。ランダムに式が並んでいる方が速くできる児童も多い。そこで，「基礎・基本の手引き」は，100マスにこだわらず，繰り上がりのないたし算，繰り下がりのないひき算，繰り上がりのあるたし算，繰り下がりのあるひき算ができる。と，したい。（1年）
- ・ 2年生にとって，ひき算を5分でクリアするのは困難なので，問題数を減らしたり，時間を長く設定するなどの配慮が必要と考える。（2年）